

2-2-4)

津波被災水田の生態系復元力による復興

岩渕成紀 NPO 法人田んぼ理事長

2011 年 3 月 11 日に起こった東日本大震災は、東北の沿岸部の生態系に大きな影響を及ぼした。NPO 法人田んぼは、被災直後の 2011 年 4 月から、宮城県気仙沼市大谷を始めとして、宮城県塩竈市浦戸諸島寒風沢（さぶさわ）島、宮城県南三陸町志津川小森熊田・秋目川、岩手県陸前高田市米倉地域を中心に生態系の復元力を活用した津波被災地の田んぼの復興を行ってきた。その間、1200 名を超える多様なボランティアを被災地に導入し、田んぼの復興を試み、『ふゆみずたんぼ』を活用して抑塩に成功、各地の生物多様性、水質、土壌成分の科学的なモニタリングを継続し、被災した 2011 年震災年の秋から豊かな収穫を享受するまでに至った。その後、各地の見捨てられてきた津波被災地の田んぼの復元を図り、現在に至っている。津波多発地帯の『津波被災後の農地は豊かになる』という言い伝えを科学的に証明し、現地の信頼を得ながら継続してきた復興活動の展開によって、生物多様性の向上とともに、6 次産業も含めた持続可能な経済システムが作り上げられつつある。

【田んぼの生物多様性向上 10 年プロジェクトへの登録内容】

【愛知目標】

普及啓発, 各種計画への組み込み, 消費と生産, 保護地域, 種の保全, 知識・技術の改善

【水田目標】

- 1-1, 1-2, 1-3 : ESD 活動を通じて、田んぼの生物多様性の価値の普及に努め、田んぼの体験活動を多様に行い、水田の生物多様性が分かる教材を作成する。
- 2-2, 2-3 : 各種委員会などの場で水田生物多様性の視点を盛り込むよう働きかける。
- 5-3 : 生物多様性を向上させる農法（ふゆみずたんぼなど）の更なる普及を行う。
- 11-1 : ラムサール条約湿地に周辺水田を含める取り組みを各地に普及する働きかけを行う。
- 12-1, 12-3 : 地域版の水田に生息する生物種リストを作成する。また、その広報活動を行う。
- 17-1 : 水田の生物多様性を評価する指標を提言する。